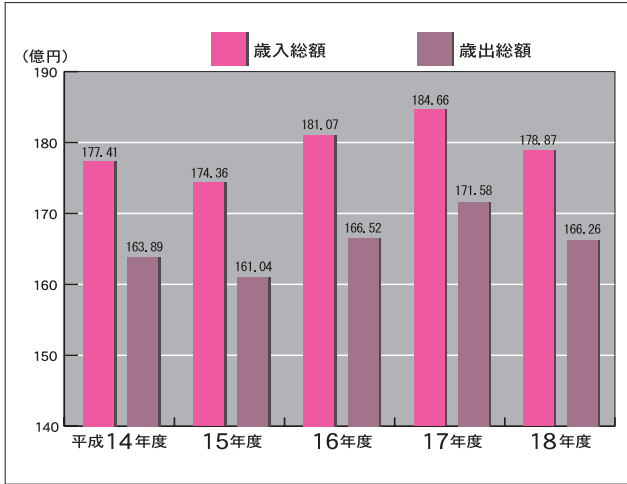


決算額の推移



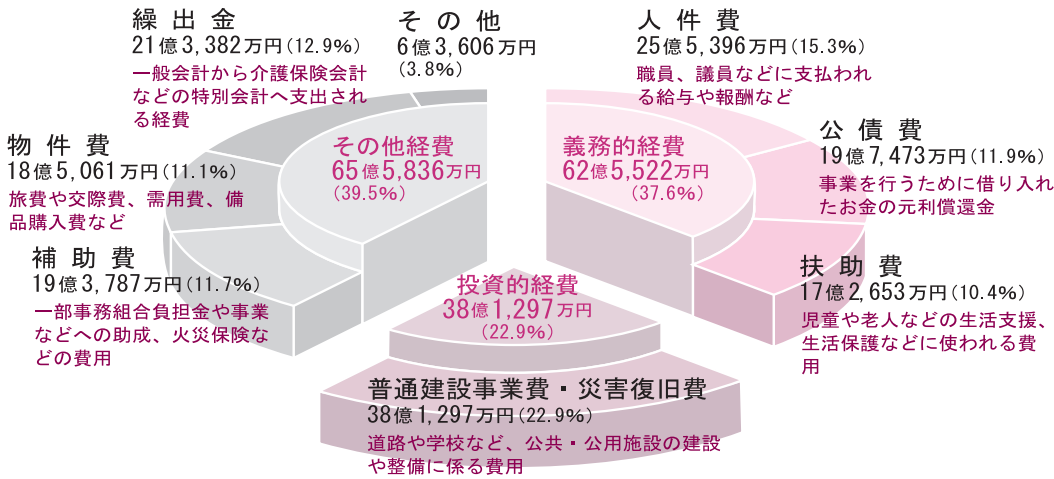
14年度から18年度までにおいては、左のグラフからも分かるとおり、歳入は170億円台から180億円台で推移しています。16年度からの国による三位一体の改革により、国庫補助金が減額となる中、歳入の柱となる市税は比較的安定した収入となっています。歳出については、行政改革に取り組みながら、第4次総合計画に基づき事業の推進に努めています。

決算額の推移

歳出総額 166億2,655万円

【性質別】

用語解説



■義務的経費

歳出のうち支出が義務付けられ、任意に節減できない経費

■投資的経費

道路・学校・公園・市営住宅の建設など、社会資本の整備などに要する経費

■その他経費

特別会計への繰出金や補助費のほか、消費的性質である物件費など通常の行政活動を支える経費

歳出の概要

歳出決算額は、166億2,655万円で前年度比3・1%の減となりました。主なもののうち、人件費は行政改革の一環として退職者の不補充により職員5人を削減し、前年度比4・0%減の25億5,396万円、普通建設事業費は事業の完成により前年度比14・3%減の38億597万円となった反面、公債費・扶助費・繰出金は、合わせて前年度に比べ3億1,621万円の増額となりました。

また、事業としては、乳幼児医療費助成の対象を就学前から小学校6年生までに拡充したほか、まちづくり交付金を活用した古井小北・薬師下諏訪土地区画整理事業の推進、交通弱者に対する安全対策として市道「島加茂野線」の歩道バリアフリー化事業、学校の森づくり事業、山之上コミュニティセンターの建設、学校給食センターの建設に関する設計・用地取得などを実施しました。